

大阪狭山市文化財報告書2

狹山神社遺跡
測量調査報告書

1 9 8 9 . 3

大阪狭山市教育委員会

は し が き

狹山神社遺跡の調査は、本市が市政施行をきっかけとしての文化財保護行政の一環として本格的な調査を計画したものです。狹山神社遺跡では以前に藤原時代と思われる瓦片を発見しており、この時代にかなりの規模の寺院があったと推定されていました。

狹山神社は大阪南海高野線金剛駅西側約200m、本市狹山池南東約500mに位置し、『延喜式』神名帳に見られる式内社として古くから周辺の人々に崇敬され、現代も神事には多くの参拝者を見ています。

今回の調査は当神社の裏山を中心とする周辺の測量調査が中心で、今後の本格的調査に向けての事前調査と考えています。一度消滅してしまうと二度と戻らない文化財を守り、伝えていくことは今を生きる私たちの使命であると確信しております。また、ますます増加する土地開発が進む折から、本市に残された文化財を保護する意味からもこのような調査は、非常に重要と考えます。皆様方におかれましても今後の文化財保護行政に対し、なお一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、調査を実施するにあたって関西大学文学部考古学研究室の御協力を賜りましたことをここに記して厚く感謝の意を表します。

平成元年3月

大阪狹山市教育委員会

教育長 上 谷 三 郎

例　　言

1. 本書は、大阪狭山市教育委員会が、同市内文化財保護の一環として行なった測量調査報告書である。

2. 測量調査及び調査期間は下記のとおりである。

調査期間 昭和63年6月1日～6月28日

調査参加者

関西大学文学部非常勤講師 米田文孝

関西大学文学部考古学研究室

徳田誠志、鐵英記、大下明、中村弘、十河良和、久保恵里子、

林真理子、飯島哲也、小栗明彦、川越邦江、久保勝正、久保潮、

白澤崇、露口真広、土井和幸、宇都宮公子、津川千恵、廣岡孝信、

富田尚夫、井関暁洋、中野順子、穂積亞希子、伊藤信明、

大森幹人

(敬称略)

3. 測量調査の整理は白澤崇氏が行い、表掲遺物の整理については

中村弘、廣岡孝信、富田尚夫が行なった。

4. 本書の編集・執筆は大阪狭山市教育委員会社会教育課 枝仁孝、

市川秀之、関西大学考古学研究室 中村弘が行った。

5. 測量図中に表示した方位は磁北であり、標高はO. Pを用いた。

なお、座標の設置にあたってはエンジニアリング株式会社の協力を得た。座標点の座標は以下のとおりである。

A { x = -167,245,000

y = -40,400,000

B { x = -167,235,000

y = -40,400,000

C { x = -167,245,000

y = -40,390,000

6. 調査に際しては狭山神社宮司の山崎 修氏に協力を得た。

7. 資料の紹介については関西大学文学部考古学等資料室の角田芳昭氏の協力を得た。

8. 調査過程における助言、指導については関西大学文学部教授 綱干善教先生の協力を得た。

目 次

はしがき 大阪狭山市教育委員会 上谷 三郎

例 言

1. 調査に至る経過.....	1
2. 地理的環境.....	1
3. 歴史的環境.....	1
4. 狹山神社の概要.....	5
5. 調査報告.....	5
6. まとめ.....	17

挿 図

第1図 地形分類図.....	2
第2図 遺跡位置図.....	3
第3図 地籍図.....	4
第4図 表採遺物実測図(1).....	7
第5図 表採遺物実測図(2).....	8
第6図 表採遺物実測図(3).....	9
第7図 表採遺物実測図(4).....	10
第8図 表採遺物実測図(5).....	11
第9図 石造物位置図.....	16

付 図

付図1. 狹山神社遺跡測量図 (1/200)

付図2. 狹山神社遺跡部分測量図 (1/100)

図 版

- 図版第 1 狹山神社遺跡付近航空写真
図版第 2 a 狹山神社拝殿近景
b 狹山堤神社近景
図版第 3 a 狹山神社裏宮山土壠現状
b 石造物（水船）
図版第 4 a (1) 軒丸瓦
b (2) 軒平瓦
図版第 5 a (3) 軒丸瓦凸面部分
b (4) 軒丸瓦凹面部分
図版第 6 a (5) 丸瓦 凸面
b (6) 丸瓦 凹面
図版第 7 a (7) 平瓦 凹面
b (8) 平瓦 凸面

1. 調査に至る経過

近年、各地で大規模な開発がますます活発になりつつあり、それに伴って発掘件数も増加の一途をたどっている。本市においてもこれは同様であり、開発に伴う調査が発掘の大半を占めている。今回測量調査を実施した狹山神社付近は歴史的にも、自然の面からも貴重な環境が保持されており、今後とも保存されていくことが望まれる。大阪狹山市教育委員会では以上のような考え方の上に立ち、文化勲章受賞者で、本市在住の末永雅雄先生のご助言をいただき現地の測量調査を実施することとなった。開発のための調査が増加するなかでこのような調査の必要性はむしろ増大しており、今回の調査をひとつのかぎりとして、これからも市内の文化財の学術的な調査をすすめていく必要があると考えている。

2. 地理的環境

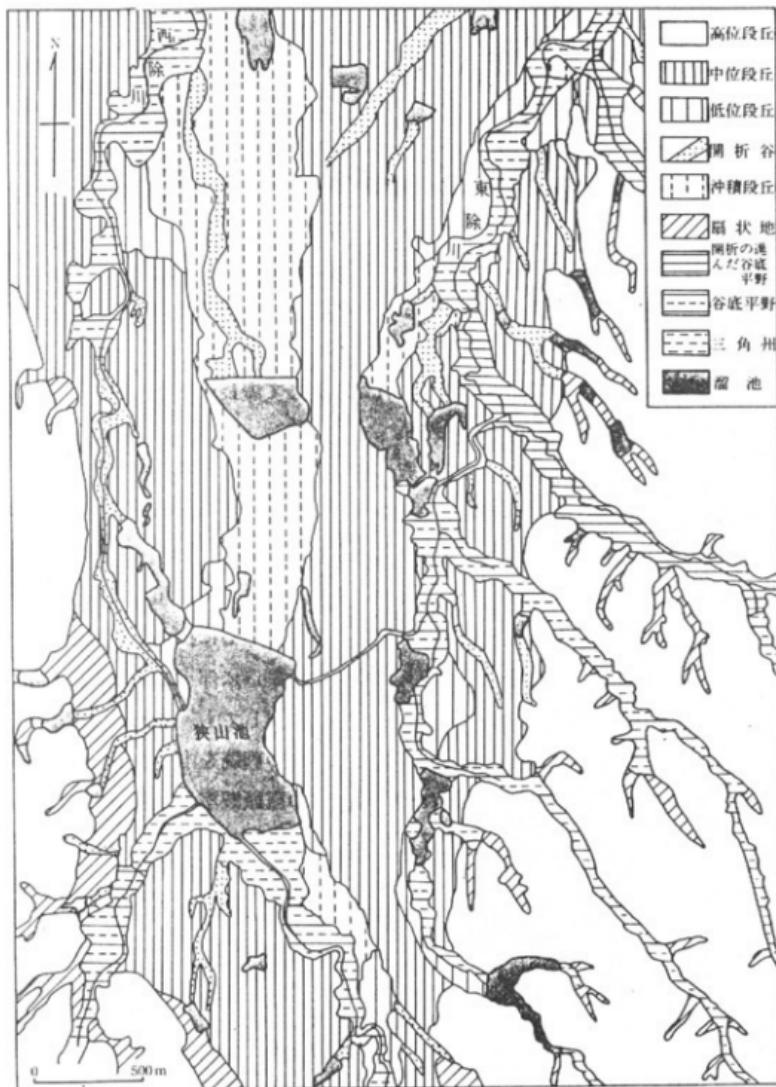
大阪狹山市は東を羽曳野丘陵、西を泉北丘陵で挟まれている。羽曳野丘陵は市域外となっているが、泉北丘陵の東端は大阪狹山市の南西部にあたる。市の全面積のうち、約4分の1が丘陵となっている。市のはば中央には狹山池が位置し、南から西除川（天野川）、三津屋川（今熊川）が流入し、北の東除川、西除川へと流出している。狹山池が築造される以前は西除川が狹山池を介すことなくそのまま北流し、太満池付近において幅約300mの谷底平野を形成していた。狹山池はこの谷底平野を堰き止めて築造されたと考えられる。また市内の所々には河岸段丘が認められる。羽曳野丘陵、泉北丘陵に挟まれた谷幅約1.2~1.5kmの平野は谷底平野や開析谷以外大部分が中位段丘面で、段丘崖は南へいくほど谷底平野との比高差が大きく、5mにも達するが、北に向かって徐々に小さくなり2m足らずになる。上今熊から山本地区にかけての一帯と、帝塚山学院大学敷地及び近畿大学付属病院東側の駐車場付近は高位段丘面にあたる。そして、このような段丘面や谷底平野が古くから生活の舞台となってきた。しかし近年の開発により自然のままの地形が残されているところが少なくなった。

（参考文献）口下雅義氏 『歴史時代の地形環境』 1980年

豊田兼典氏 「狹山の地形環境」 『大阪狹山市史要』 1988年

3. 歴史的環境

大阪府の南部、泉北・泉南地方には 大阪でもっとも広大な洪積台地が広がり、古くから人間の生活が営まれてきた。大阪狹山市内では東野、ひつ池、池之原からナイフ型石器が採取されており、寺ヶ池遺跡からは晩期旧石器時代の有舌尖頭器が出土している。縄文時代の遺跡としては 寺ヶ池、池之原、東村、池尻新池、へど池、上明池、大鳥池等の遺跡があるが、いずれも石器しか見られず、土器は出土していない。弥生時代の遺跡についても同様で 詳細は不明であり、池尻新池から茎のある柳葉形縄が2点採集さ



第1図 地形分類図(日下雅雄氏『歴史時代の地形環境』1980より引用)

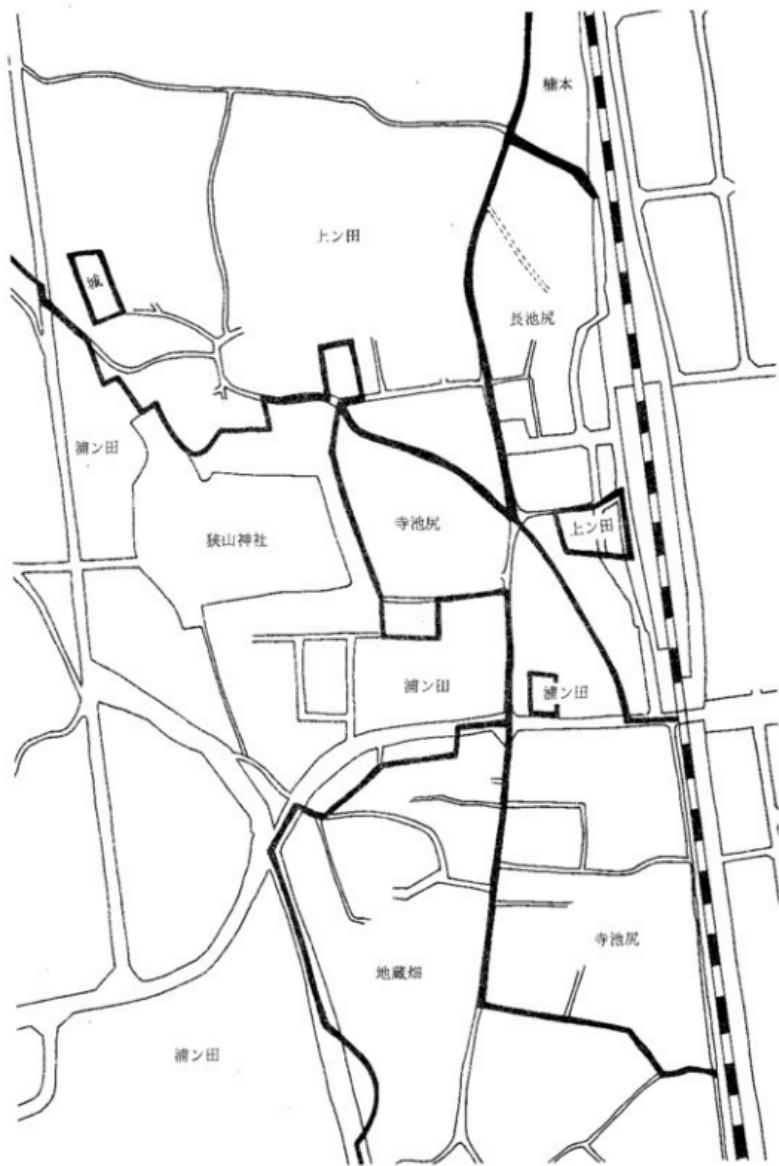
大阪狭山市全図

卷之三

大阪狹山市



第2図 周辺遺跡地図



第3図 地籍図

れているのと、茱萸木遺跡が当時代の可能性を指摘し得るのみである。古墳時代の遺跡は後期のみ確認されており、墳墓として孤塚古墳、生産遺跡として窯跡があり、市内に77ヶ所が確認されている。また、狹山池は日本最古の段階の人工池と考えられており、『古事記』『日本書紀』の崇神・垂仁天皇のときと記されているが、実年代は、明らかでない。その後、天平3年 行基による狹山池の改修と池院、尼院の建立、慶長13年 豊臣秀頼のもとで片桐且元らによる改修など、当地域の社会の必要性に対応して池の改修が行われており、池の歴史は狹山の歴史といつても過言ではないだろう。

市内において発掘調査によって明らかになった遺跡として、池尻城跡と半田遺跡がある。池尻城は13~14世紀頃に存在したことが確認されており、太刀冑金等が出土した。半田遺跡からは、中・近世の遺跡、遺構が検出された。

また狹山神社遺跡ともっとも近接している遺跡として半田城跡がある。半田城跡は狹山神社に北接しており、建武4年 南朝方の高木氏、佐倅氏の手勢が攻めたと伝えられ、明応年間には埴田右近が居城したとも伝えられるが、詳細は不明である。

このように大阪狭山市内の遺跡は考古学的調査によって確認されたものが少なく、多くは文献資料によっており、今後それらを総合的に検討してゆく必要があろう。

(参考文献) 竹内理三氏編 角川 日本地名大辞典27大阪府 1983年

勝部明生氏 「狹山の考古」『大阪狭山市史要』 1988年

4. 狹山神社の概要

狹山神社は『延喜式』神名帳に記載されている式内社で、天照大神・天児屋根命・素戔鳴尊・稻田姫命を祭神とする。崇神天皇の時代に創祀されたと伝えられる。現存する本殿は、伝明応2年(様式は江戸初期)、拝殿は文化13年、客殿は天保7年に建立された。古代においては当社と狹山池が近接していたと考えられ、狹山池との関連も考えられている。また、同敷地内に明治43年に合祀された狹山堤神社が鎮座している。狹山堤神社は狹山池を築造したとされる印色入日子命を祭神とし、慶長13年に狹山池北堤、享保15年に狹山池東、そして明神山をへて現在地に鎮座する。

(参考文献) 末永雅雄氏 「社会生活・社寺」『狹山町史』 1967年

竹内理三氏編 角川 日本地名大辞典27大阪府

5. 調査報告

①立地

狹山神社遺跡は行政的には大阪府大阪狭山市大字半田に位置し、狹山神社とその周辺を含んでいる。地理的には狹山池へと北流する西除川(天野川)の沖積段丘に神社本殿が、中位段丘面に宮山が所在する。段丘崖はほぼ南北に走り、比高は高いところで10m、低いところで約6mを測る。神社本殿は段丘崖に直行して建立されているため西面する。

中位段丘面からの景観はよく、西除川（天野川）からさらに西には泉北丘陵が一望できる。

②測量調査報告

今回の測量調査は狹山神社とその周囲約400m四方について行った。

本殿の裏、宮山の中位段丘面には、高さ約1m程の土壘状の高まりが1辺約60mに、東側がやや斜めに歪んだコの字形にめぐり、西の本殿・段丘崖側に開いている。北側の土壘と南側のそれとはほぼ平行で東側の土壘とは直交しない。東側の土壘は段丘崖の方向とほぼ一致しており、全体として平行四辺形を呈している。土壘と段丘崖とに囲まれる平坦地の面積は約3600m²を測る。土壘の内側と外側には深さ約50cmの溝がめぐっており、ほとんど水平であるが段丘崖のある西に向ってやや傾斜している。土壘の内側は高さの低い土壘が平行してめぐるほかほとんど水平で、段丘崖付近から徐々に落ちてゆく。全体に北側の方が残りがよく、南側のコンタは若干乱れている。土壘に囲まれた場所以外は南部、東部が住宅地に、北部が水田に利用されている。

③表探遺物

狹山神社遺跡から遺物が採集されており、今回報告するのは、1・2は関西大学文学部考古学等資料室所蔵の軒丸瓦、軒平瓦それぞれ1点ずつで、当大学名誉教授・文化勲章受賞者の末永雅雄先生から寄贈されたものである。3・4は当市教育委員会で採集された丸瓦・平瓦である。以下、それぞれについて観察を述べる。

1. 軒丸瓦（第4図-1）

ほぼ4分の1程残存する。瓦当部はほぼ半分残存する。色調は外面暗灰色、内面灰白色、胎土は密で砂粒は含まない。焼成は良好である。

瓦当部の文様は、左回りの三つ巴文で、それがほぼ半周し互いに接しない。先端部は尖り、三角形状を呈する。三つ巴の周りには1重の圓線があり、これらによって内区の文様が形成されている。瓦当部径16.3cm、内区径13.8cm、外縁部幅1.1cm、深さ0.8cm、巴文最大幅1.6~2.0cm、深さ最大0.6cm、外縁径13.0cm、内区厚さ1.6cmを測る。

丸瓦部は幅16.0cm、高さ8.2cmを測り、長さは現存長14.8cmを測る。凸面は、一部に縄目叩きの痕跡が認められ、その上からケズリを行なっている。瓦当部との接合部分は、隙間をうめるように粘土を充填し、さらにその上から粗雑に粘土をかぶせ、ナデている状況が窺える。凹面は布目痕が残り、コビキの痕跡が斜方向に内面全体に認められる。側縁部には幅約1.3cmの面取りが行なわれている。瓦当部との接合は比較的小量の粘土を塗り付けるようにしておらず、仕上げは悪く、粗雑な感を呈す。

2. 軒平瓦（第4図-2）

瓦当部は完全に、平瓦部は約2分の1残存する。色調は乳白色を呈し、胎土は密で1mm程度の黒色砂粒を若干含む。焼成はやや軟である。

瓦当部の文様は均正唐草文で、外縁部付近で完結せず、さらに左右へと広がっていく状況が窺え、外縁部へと取り込まれている。唐草文は肉厚で、ほぼ左右対称である。中心飾りは、幅4.4cm、高さ2.9cm、深さ最大0.3cmを測る。頸の形態はややゆるやかな曲線を描く。瓦当部は最大幅24.5cm、内区最大幅23.5cm、高さ3.1cm、文様深さ0.2cm、外縁部幅1.0cm、深さ0.4cmを測る。

平瓦部は凹面には布目痕が全体に残り、瓦当面と直交するようなかたちでゆるい円弧を描くコビキ痕が認められる。凸面は幅4.0cmのケズリが認められ、縦方向に削った後、瓦当部側のみ横方向に削られている。側縁部には幅1cmの面取りが行なわれている。側縁部は垂直に立ち上がっている。幅23.5cm、高さ7.5cm、側縁部高さ2.7cmを測る。

3. 丸瓦（第5図・第6図）

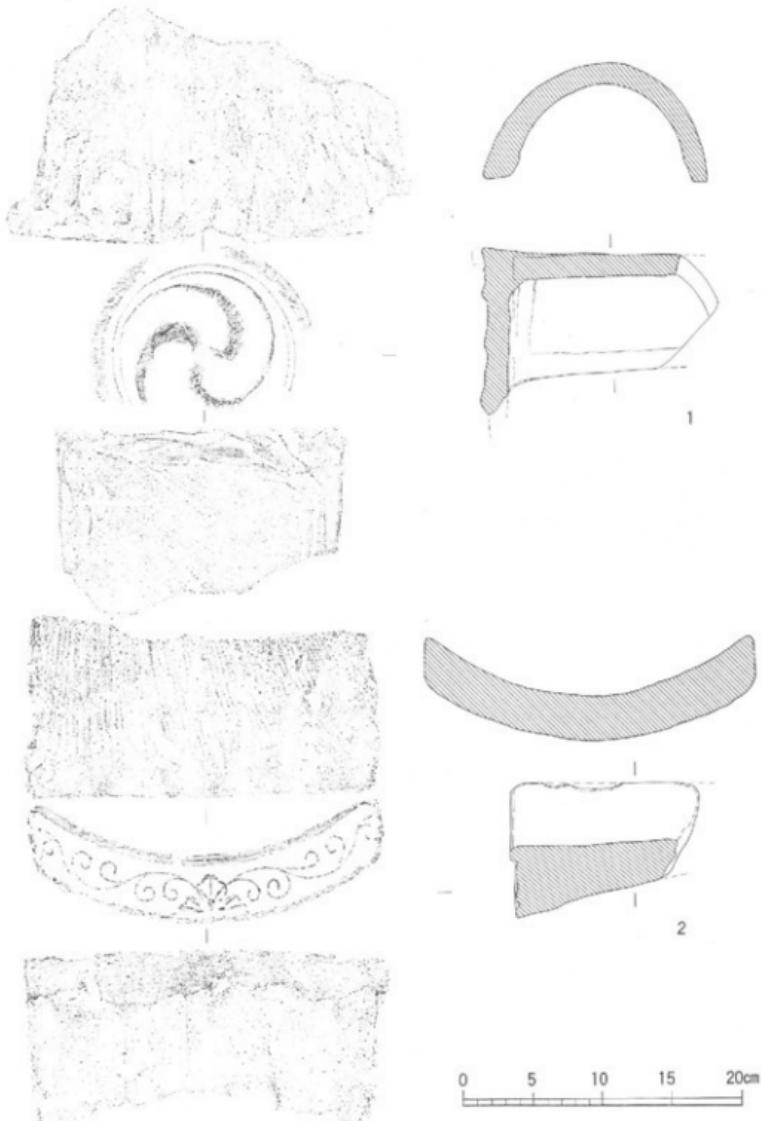
全部で4点採集された。それぞれ半分ほど残存する。確認できるもの全ては行基葺き瓦で、若干へこんでいるのみである。凸面は繩目叩きの後擦消され、ほとんどその痕跡をとどめない。凹面は全体に布目痕が残っているが、側縁部と狭端面側は面取りによって消されている。コビキの痕跡が斜めに認められる。釘穴の認められるものもある。

4. 平瓦（第7図・第8図）

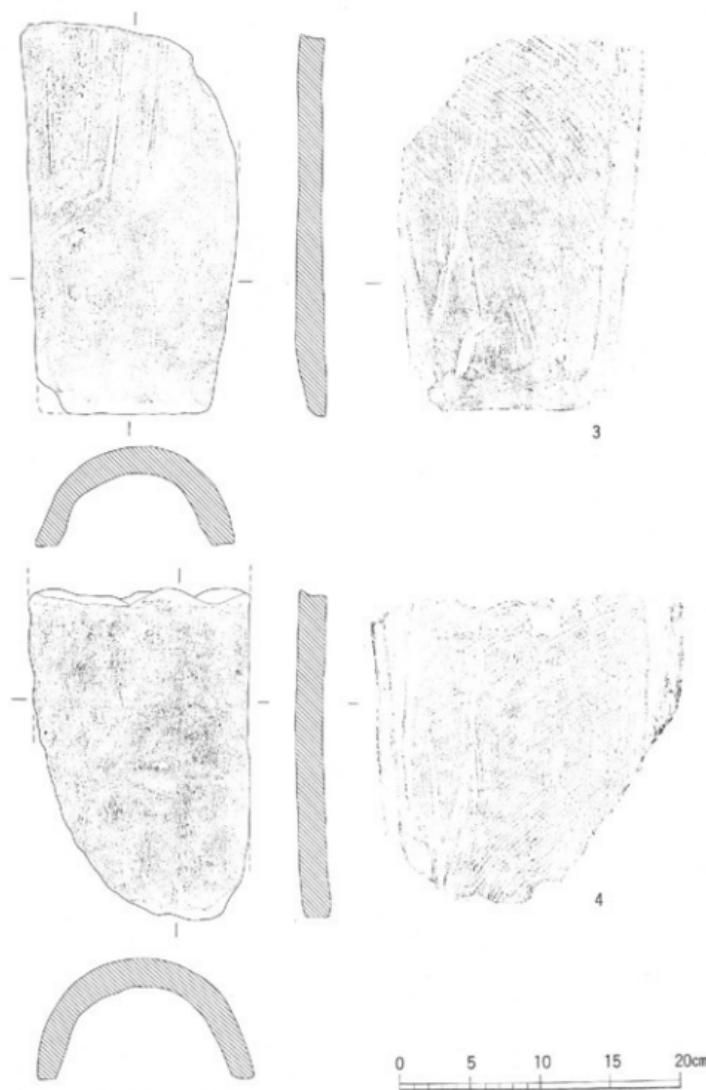
全部で5点採集されたが、全て破片で全体の状況は不明である。凹面には布目痕が全体に認められるが、端面側は面取りによって消されている。コビキ痕が斜め方向に認められる。凸面には繩目痕が深く明瞭に残り、擦消されていない。色調が青灰色で硬質のものと、淡橙色の軟質のものの2種類が認められる。

④石造物

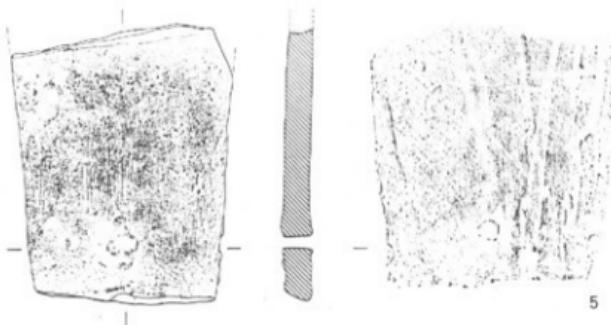
全部で22点あり、種別は門柱、水船、百度石、灯籠、狛犬がある。年代は最も古いものは正徳五年の水船で、新しいものは大正十年の門柱があるが、ほとんどは江戸時代中・後期のものである。種別・銘文については次ページからの表にまとめてあり、それぞれの場所については、表の番号と第9図の石造物位置図とに対応させた。



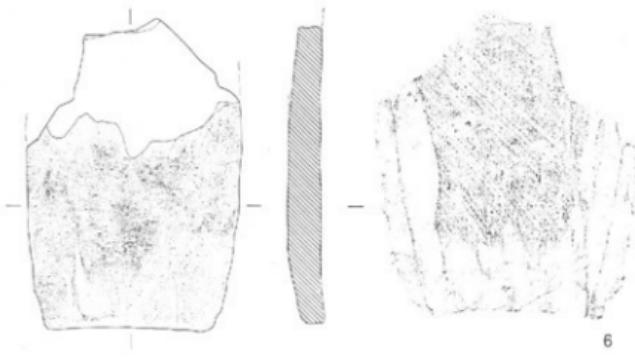
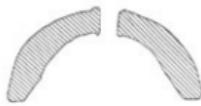
第4図 表様遺物実測図(1) 軒丸瓦・軒平瓦



第5図 表掲遺物実測図(2) 丸瓦



5

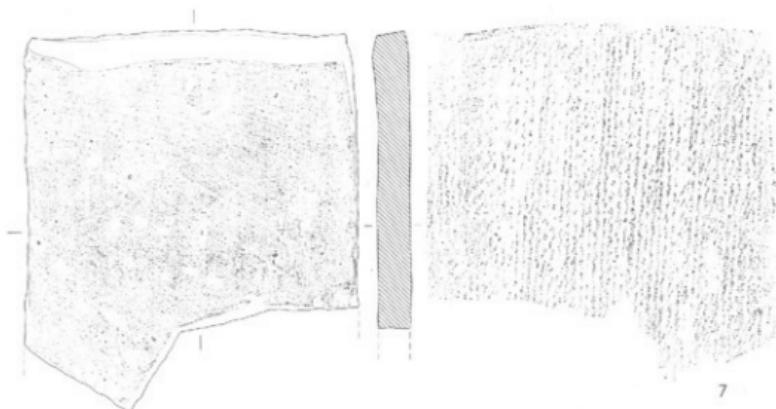


6

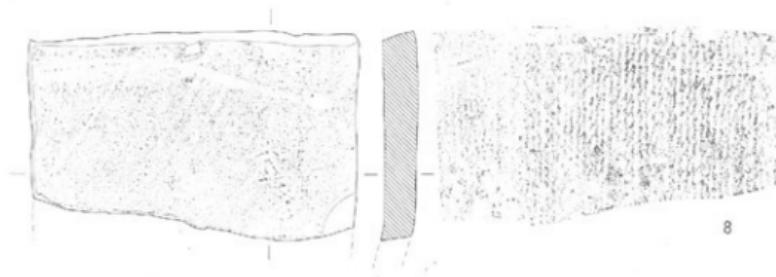


0 5 10 15 20cm

第6図 表探遺物実測図(3) 丸瓦



7



8



0 5 10 15 20cm

第7図 表探遺物実測図(4) 平瓦

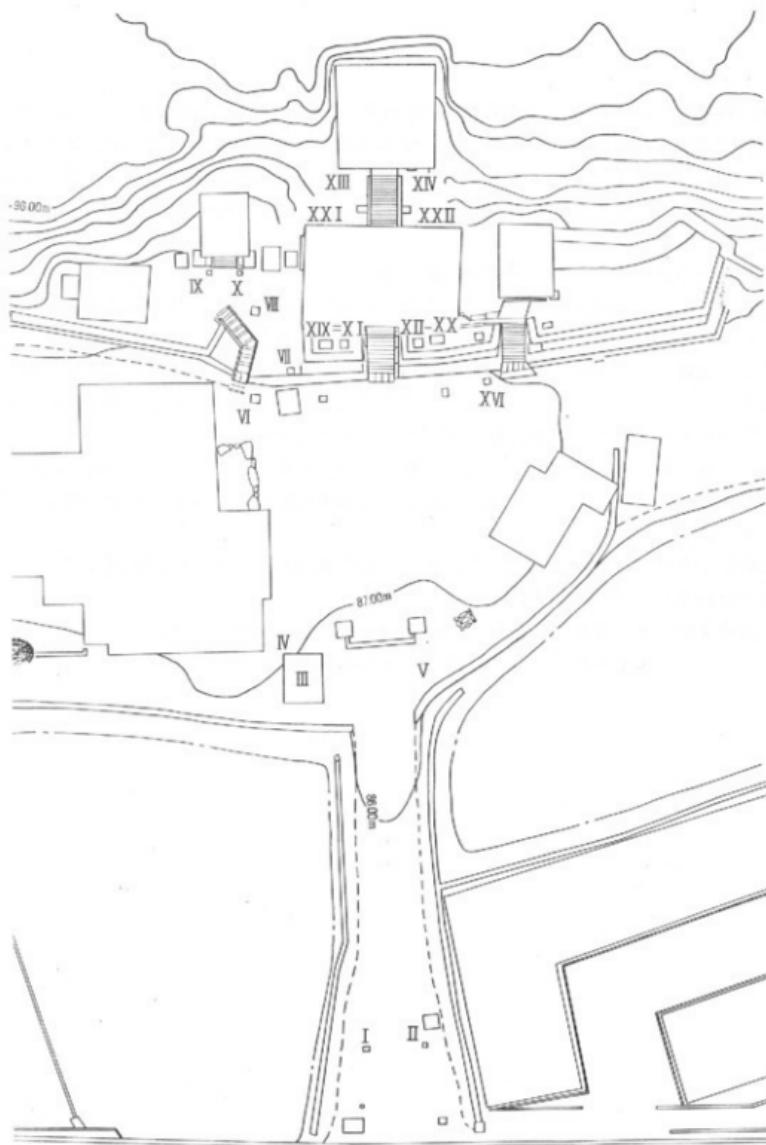


第8図 考採遺物実測図(5) 平瓦

番号	種別	年代	銘文	備考
I	門柱	大正10年	(正面) 五穀豊穣 (裏面) 大阪呉服商吉田一雄建立 妻小石	IIと対
II	門柱		(正面) 国土安穏 (裏面) 大正十年二月奉獻	Iと対
III	水船	正徳五年	(正面) 正徳五年乙未歳八月廿五日 牛頭天皇 御神前 願主前田住 溝端氏	
IV	百度石	慶應二年	(正面) 百度石 (左面) □内□左衛門 (右面) 慶應二寅年	Vと対
V	百度石		(正面) 百度 (左面) 森 (右面) 不読	IVと対
VI	灯籠	元文五年	(裏面) 元文五庚申八月六日 施主與左衛門	
VII	灯籠	元文二年	(正面) 十一月吉日 (裏面) 元文二丁巳天	
VIII	灯籠	延享三年	(正面) 奉寄進 (左面) 延享三年丙寅正月十四日 (右面) 施主 上谷 全□	
IX	灯籠		(銘なし)	Xと対
X	灯籠		(銘なし)	IXと対
XI	灯籠	寛政元年	(正面) 御神燈 (左面) 寛政元 (右面) 上谷金次	Xと対

番号	種別	年代	銘文	備考
XII	灯籠	寛政元年	(正面) 御神燈 (左面) 上谷金次 (右面) 寛政元年	XIと対
XIII	灯籠	元文元年	(正面) 永代常夜燈 (左面) 八月吉日 (右面) 元文元丙辰歲 (裏面) 半田村與左衛門	XIVと対
XIV	灯籠	元文元年	(正面) 永代常夜燈 (左面) 八月吉日 (右面) 元文吉日 (裏面) 半田村與左衛門	XIIIと対
XV	灯籠	宝暦十年	(正面) 太神宮夜燈 (左面) 宝暦十庚辰年九月十二日	XVIと対
XVI	灯籠		(正面) 太神宮夜燈 (左面) 浦庄中	XVと対
XVII	灯籠		(正面) 常夜燈	
XVIII	灯籠	文化七年	(正面) 永代常夜燈 (左面) 前田中 (右面) 文化七年庚牛年九月	
XIX	狛犬	文政元年	(正面) 献奉 (裏面) 文政元年 戊 寅八月吉日 頤主 大坂 今井氏	XXと対

番号	種別	年代	銘文	備考
XX	狛犬	文政元年	(正面) 獻奉 (裏面) 文政元年 戊 寅八月吉日 願主 大坂 今井氏	XXと対
XXI	狛犬	文久3年	(正面) 獻 (左面) 文久三年 戊□□ (右面) 世話人 肝前火 五右衛 助左衛門 金左衛門 (裏面) 中村□	XXIと対
XXII	狛犬		(正面) 奉 (左面) 浦庄 上谷□□ 比□ 松川茂□ (右面) 不說 (裏面) 中村北	XXIIと対



第9図 石造物位置図

6. まとめ

狹山神社遺跡はこれまで測量図等の資料が全くなく、詳細は不明であった。狹山町史、大阪狹山市史要に表採された瓦の写真、拓本が載せられているのみで、宮山の形状は資料として使えるものはなかった。今回の調査報告によって宮山における土壘の存在とその形状、また表採された瓦の実測と拓本によって、さらに当遺跡の性格が浮かび上がったと言えよう。

また、当遺跡の候補として河州丹南郡半田村にあったとされる安楽寺という寺院が考えられる。瓦の存在はそれを裏づけるものである。瓦はおよそ平安時代後期から鎌倉時代にかけての年代を示す特徴をもっており、今回報告した瓦、狹山町史に記載されている瓦、大阪狹山市史要に記載されている瓦、いずれも同様の形状で当遺跡に一般的に存在するものであると思われる。神社境内には近年まで薬師堂があり、神仏混合の形を残していたことからも寺院が存在していたことを思わせる。

また、狹山神社の北に接して「城」と称する地名が残っており、あるいは半田城との関係があるとも考えられるが、当時代に該当する考古遺物が知られていない現在では確定できない。

大阪狹山市内では、行基の建立した伝えられる狹山池院、尼院の所在地などを含めて不明な点が多く、今後の調査に期待される。

(参考文献) 末永雅雄氏 「社会生活・社寺」『狹山町史』 1967年

末永雅雄氏 「郷土狹山」『大阪狹山市史要』 1988年

図版



狹山神社遺跡付近航空写真



a. 狹山神社拝殿近景



b. 狹山堤神社近景



a. 狹山神社裏宮山土壘現状



b. 石造物(水船)



a. 遺物(1) 軒丸瓦



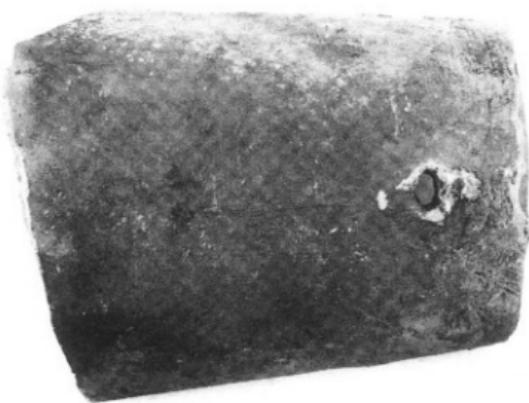
b. 遺物(2) 軒平瓦



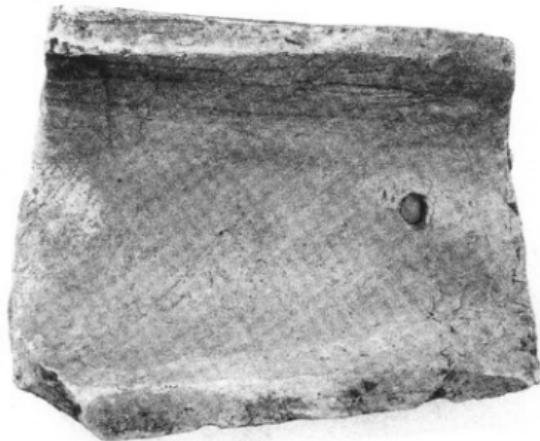
a. 遺物(3) 軒丸瓦凸面部分



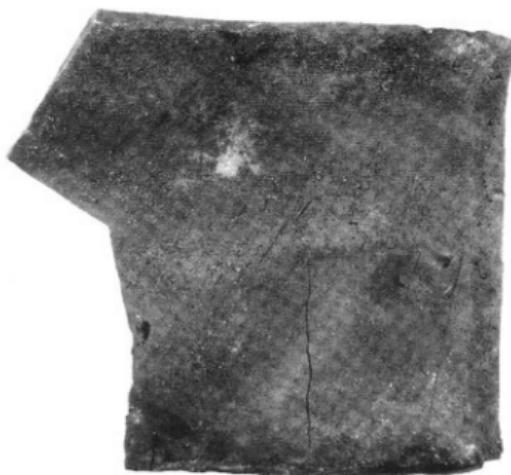
b. 遺物(4) 軒丸瓦凹面部分



a. 遺物(5) 丸瓦凸面



b. 遺物(6) 丸瓦凹面

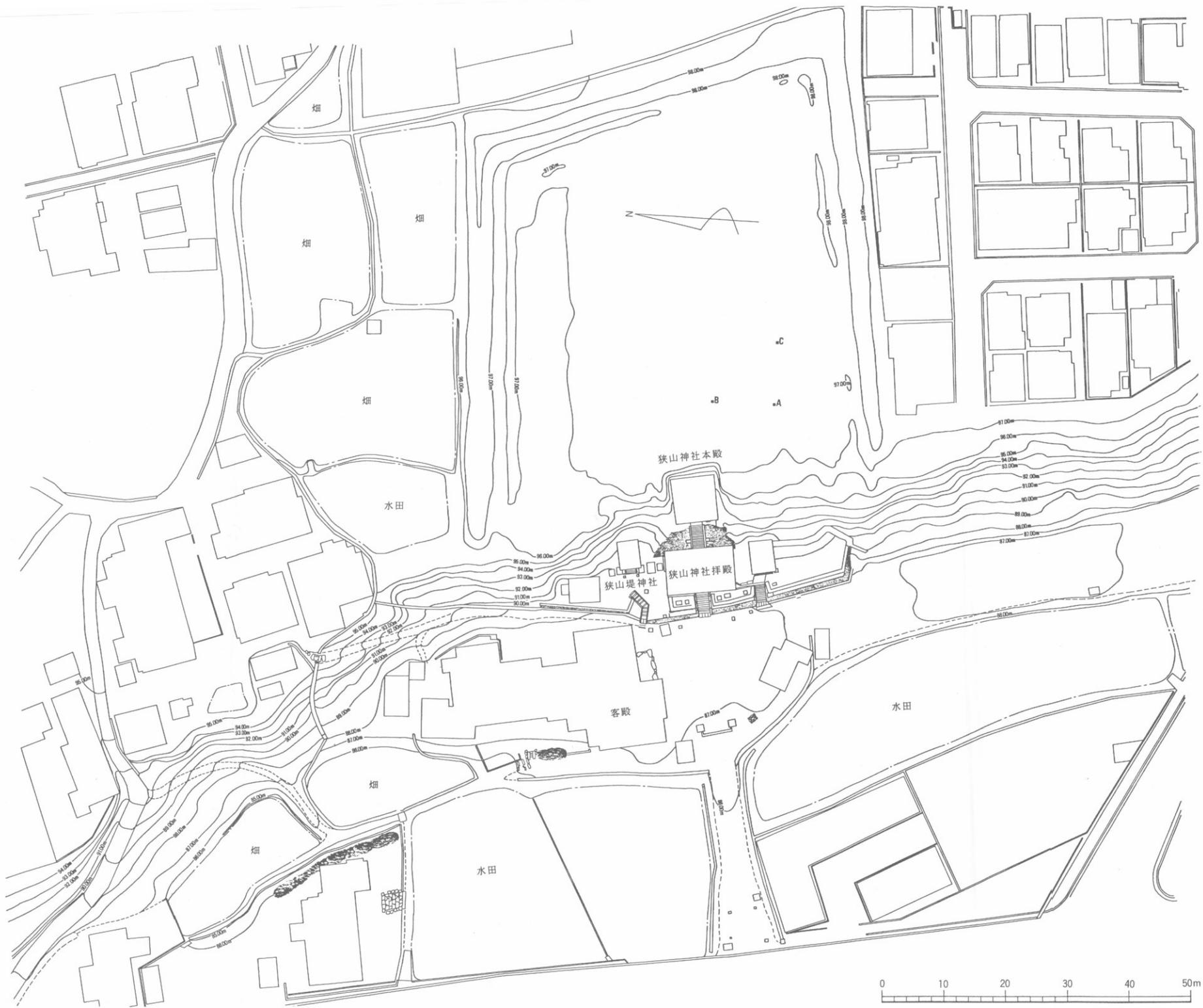


a. 遺物(7) 平瓦凹面

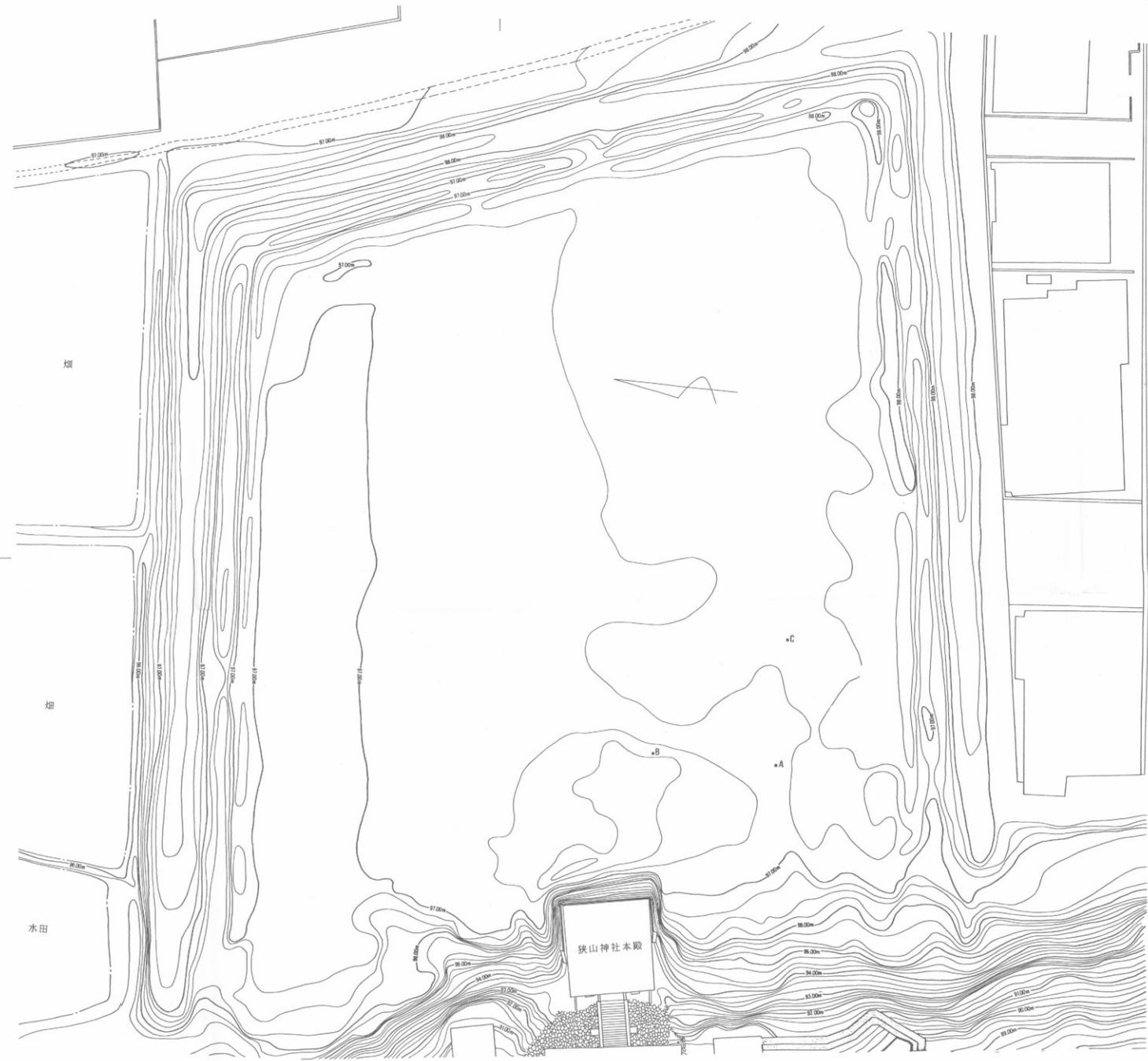


b. 遺物(8) 平瓦凸面

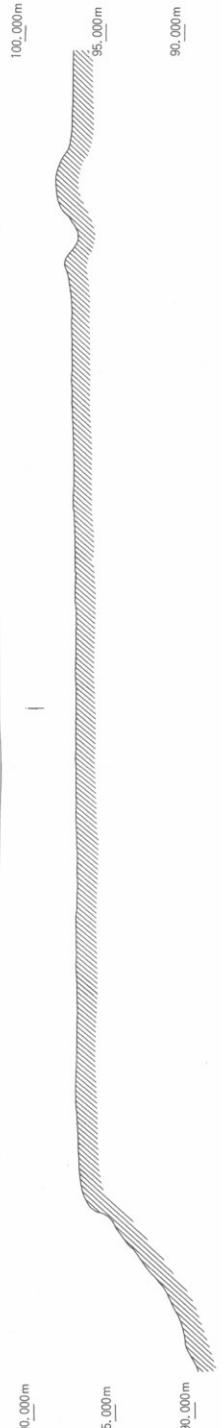
付図



付図 1



付図 2



100.00m

95.00m

100.00m

95.00m

0 5 10 15 20m

90.00m

